

# 探Q NEWS

探究進学科・文科・理科の活動を発信します Vol.2.

## 探究文科「越前市男女共同参画センター 20周年記念フェスタに参加」

Vol.2.

R3.4.18

4/18日(日)越前市役所にて「越前市男女共同参画センター20周年記念フェスタ 未来のために今、はじめよう!誰ひとり取り残さないカラフルなまちへ」が行われました。そこで武生高校、武生東高校、仁愛大学の生徒学生が「未来を創る若者が考える フェアネス&ダイバーシティ 越前市を誰ひとり取り残さない 持続可能なまちにするには?」というテーマのもとSDGs研究発表を行いました。

本校の発表者と発表タイトルは以下の通り。

探究文科2年1組 杉森 心奏(すぎもり ことね)さん

「『セクシャルマイノリティ』って、聞いたことあるけど実際なんなんですか?  
~日本の現状と私たちにできること~」

探究文科2年1組 堅田 和夏(かただ わか)さん

「個人的解釈による差別くん誕生秘話」

2人とも、1年次の後期課題研究で取り組んだもので、「セクシャルマイノリティ」や「LGBTQ」についてのアンケートを実施し結果を分析し、考察を見事にまとめていました。また、「学校で性教育をおこなうこと」「体育で着替える場所を考える」など、具体的な内容を学校へ提案をしました。今後の課題としては、自分たちの意識を変えるきっかけになるように提案した内容を具体的に「行動」として起こすことです。

さて、このフェスタでもうひとつの目玉は、「共に生きる社会へ 変えるのは私たち~未来のために、今、はじめよう!~」と題し、社会学者・東京大学名誉教授である上野千鶴子先生の講演と課題研究発表者との交流(リモート)でした。



(17日の録画直前の様子。  
杉森さん(右)と堅田さん(右から2番目))



(18日、実際にやりとりを行った社会学者・  
東京大学名誉教授である上野千鶴子先生)

上野先生のお話では、まだまだ男女平等の社会ではないということ、コロナ禍において生活が苦しいのは非正規労働者でありそれは女性が多く、シングルマザーはさらに困っていること、自殺者は女性が増えその中には10代、20代女性が多いということなどをデータとともにお示しく下さいました。また、課題研究発表後、高校生との交流では、「女子高校生は今や、元気でどんどん前に出て仕事をしよう、という気概が見えるが、一方、男子高校生は自分の両親を見て、自分の母親のような女性が自分と結婚して自分のそばにいてくれると根拠のない妄想を抱いている。」というお話をされた。女子はどんどん意識が変化していくのに、男子はなかなか意識の変化が見られないそうです。「そんな女子と男子が出会ったらどうなるんだろうねえ。」という上野先生のお言葉に会場の高校生をはじめ参加者は苦笑いでした。

最後には、「探究学習をするのなら、自分の足元からやってほしい。自分事として捉えてやってほしい。」とおっしゃられて、今まで何度も聞いている「自分事」という言葉が、また胸に刺さりました。

(今回の課題研究発表は、「丹南ケーブルテレビ」にて放送予定です。)